

気になる

数字 number

インバウンド産業の動向

▲宿泊施設キャパが制約

早晚、限界となる懸念

大阪府の宿泊者数は外国人が順調に伸長しているものの、日本人は平成27年では減少している。客室稼働率から逆算した現実的キャパシティから余裕枠を試算すると、540万人・泊に過ぎない。26年から27年にかけて、外国人宿泊者数が310万人・泊増えたことを考えれば、今後のホテル開業を見越しても、これまでのような伸びは期待できない。

▲大阪の宿泊余裕は旅館のみの様相

客室稼働率に関して、近年、大阪府は4〜5%のペースで毎年上昇しており、27年は平均で85.2%と東京都を上回っている。季節変動が不可避な宿泊施設にあって、ほぼ限界的な水準にまで達しているのが現状である。

施設タイプ別でも、旅館以外は90%前後であり、これ以上の稼働は期待薄である。また、旅館は大阪市以外の方が多いため、特に大阪市内では満杯状態といえ

▲百貨店の免税品販売

京阪神は上昇に陰り

平成25年10月に免税品の枠が拡大されて以降、急上昇をたどり、27年4月には売上高は60億円を超えたものの、その後は中国の株価下落も影響したのか、50億円前後で推移している。

【出所・(公財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室】

宿泊施設の客室稼働率(大都市別)

